

## 「輝け11 しまね町村フェスティバル」(第5回)について

### 1. 企画概要

- 趣旨 県内11町村の伝統文化・芸能、また豊かな海の幸、山の幸を紹介することにより、これまで培ってきた島根の原風景「まち・むら」の魅力・輝きを情報発信
- 主催 島根県町村会及び島根県町村議会議長会並びにTSK(実行委員会)
  - \*共催 島根県・島根県教育委員会
  - \*後援 山陰中央新報社
  - \*協力 島根経済文化振興会・島根経済同友会・島根県環境保健公社・山陰合同銀行・千里
  - \*第5回記念特別参加 飯南高校・矢上高校・吉賀高校・隠岐水産高校
  - \*特別参加 日本赤十字社島根県支部・島根県共同募金会・島根県緑化推進委員会・島根県猟友会・島根県森林協会・島根県水産振興協会・水土里ネット島根・しまね自然と環境財団・しまね国際センター・島根県国民健康保険団体連合会・東日本大震災松江・島根支援協議会
- 日時 平成27年10月3日(土曜)及び4日(日曜)の2日間
- 会場 松江市殿町 島根県庁前庭
- 主な事業内容
  - ・地域の伝統文化、芸能等の紹介
  - ・地域の特産品の紹介、実演、販売促進
  - ・観光、定住促進に向けた情報発信

### 2. 開催概要

#### 1) 来場者数 2万9千人

・年次、来場者数は増加傾向(H23:11,000人→H24:18,000人→H25:19,000人→H26:22,000人)にある。第1回に比べ2.6倍、県庁前庭に会場を移してから1.5倍。

両日とも天候にも恵まれ、3日(土)は一日としては過去最高の15,000人の来場を記録した。この要因としては、次の点が挙げられる。

① イベントとしての認知度が向上し、秋の風物詩として定着してきたこと。

・開催時期の固定化 ・テレビなどによる効果的な広報

② 会場が県庁前庭で交通の便がよく、また城山大茶会や県民会館など周辺の催しとの相乗効果が見られ、新たな層の来場につながったこと。また、ゆるキャラ集合により、家族連れが年次増加していること。

③ 第5回を記念した4高校の特別参加により、若い層の来場につながったこと。

・1日目の3日(土曜日)は、朝から好天気で、来場者が途切れることなく一日中続いた。11時頃からは各ブースに長い行列ができはじめ、会場全体として大変な賑わいとなり、その後も、終了まで多くの来場者でにぎわった。来場者15,000人。

・2日目の4日(日曜日)も、引き続きの好天気に恵まれ、来場者が途切れることなく続いた。午前中は「ゆるキャラ集合」の効果により家族連れが多く見られ、昼食時にはピクニックのような芝生上での団欒風景が多く見られた。昼過ぎから完売ブースが出始め、14時頃から来場者の伸びが止まった。来場者14,000人。

・去年の「水森かおりステージ」のような大型企画はなかったものの、引き続き実施した「しまねっこ」などゆるキャラ集合は、多くの若い家族連れの来場が見られるなど、テレビによる広報効果と相まって、効果的な企画となっている。

#### 2) ステージ関係

・メインステージでは、県内各地域の神楽や、本場隠岐の民謡、力強い太鼓、伝統的な踊り、また会場全体を利用した踊りなど、様々な伝統文化などが披露された。

#### 3) 物産ブース関係

・県内各地域の海の幸、山の幸の出展があり、特に、試食、実演を行うブースが増加傾向にある。  
・来場者の伸びにより、物産関係の売り上げも大きく伸び(2日間で1千万円超)、両日とも多くのブースで完売が相次いだ。